報　告

「浜松市と大学との連携事業―大学生による講座」に参加して

青山満喜
常葉大学保健医療学部理学療法学科

要　旨

浜松市と本学が連携事業として行った大学生による講座の概要を報告するとともに，講座の受講者からは受講後の感想を，講師を務めた理学療法学科学生からは講座実施後の感想を聴取した．二回にわたる講座の受講生は計 43 名．今回の講座は受講生にとって，自分自身の運動機能を客観的に知るための一助となった．また講師を務めた学生にとっては，将来の理学療法士像を自覚するための良い機会となった．

キーワード：市と大学の連携事業，学生講師，ロコモティブ・シンドローム

はじめに

浜松市は 2009 年 3 月に浜松市生涯学習大綱[1] をまとめ，その中には「市民の学びや経験に基づく自発的な活動を地域全体の発展に結びつける仕組み作り」を，自治体の役割の一つとして示している．これを基に浜松市は，2011 年度から生涯学習施設で実施されている地域住民を対象とした講座を開催する機会を市内の大学生に与える，「浜松市と大学との連携事業―大学生による講座」を開講した．この講座に参画した大学および講座数は，開講初年の 2011 年度は 1 大学 4 講座であったが，参加する大学数は年を追うごとに増加し，2019 年度には市内の 5 大学の計 52 講座が開講された[2]．常葉大学浜松キャンパスの学生が講師を務める講座も，参加初年度（2016 年度）の 6 講座から，2019 年度には 8 講座に増加した．

本講座は，学生たちが大学での学びを活かして講座を企画・運営するものであり，地域の活性化につながる取り組みの一つとして注目されている．地域社会への貢献活動は，サービス・ラーニングと呼ばれ[3]，大学生が行う地域貢献活動には様々なものがある．医療系の学部・学科に在籍する学生の地域貢献活動については，地域医療や公衆衛生に関する実践の模様が報告されている[4,5]．筆者は 2019 年度，学習活動および卒業研究指導の一環として“ロコモティブ・シンドローム（以下：ロコモ）”に関する二つの講座への参画を 3，4 年生の学生に促し，学生講師を担当させる機会を得た．この度，「浜松市と大学との連携事業―大学生による講座」と講師を務めた学生の様子を報告する．

実施した講座の概要

開催した二つの講座の概要を表1，2に示す．

都田協働センターでは，「子供も予防！ロコモティブ・シンドローム」と題し，理学療法学科３年生の男子学生４名が学生講師を務めた．初めに受講者全員に対しロコモに関する講義を行い，その内容を説明した後，ロコモのリスクや成人のロコモ，小児のロコモについて解説した（図1）．その後，高齢者，成人（保護者），小学生の三グループに分かれ，全員の運動機能チェック「ロコチェック」を実施し，測定結果のフィードバックを行った．受講者には，測定結果の具体的な数値を知ることにより，自分自身の運動機能を把握するよう促した．特に高齢の受講者には，ロコモとなる得るリスクについて入念に説明した．講座の最後には，学生講師の指導の下，受講者全員でロコモ予防体操を行った（図2）．

表1．講座概要（都田協働センター）

年月日	2019年 8月24日
場所	都田協働センター
学生講師数	4名
参加者数	17名
実施内容	ロコモに関する講義；題「ロコモティブ・シンドロームとは」 ロコモのリスクについて説明 成人用ロコモ度テスト「ロコチェック」実施 小児用ロコモ度テスト「ロコチェック」実施 「ロコチェック」結果のフィードバック ロコモ予防体操

図1．都田協働センターに於けるロコモ講座

図2．都田協働センターに於けるロコモ予防体操

表2．講座概要（細江協働センター）

年月日	2019年 10月 8日
場所	細江協働センター
学生講師数	3名
参加者数	26名
実施内容	ロコモに関する講義；題「ロコモティブ・シンドロームとは」 ロコモのリスクについて説明 成人用ロコモ度テスト「ロコチェック」実施 「ロコチェック」結果のフィードバック ロコモ予防体操

図 3. 細江協働センターに於いてのロコモ講座

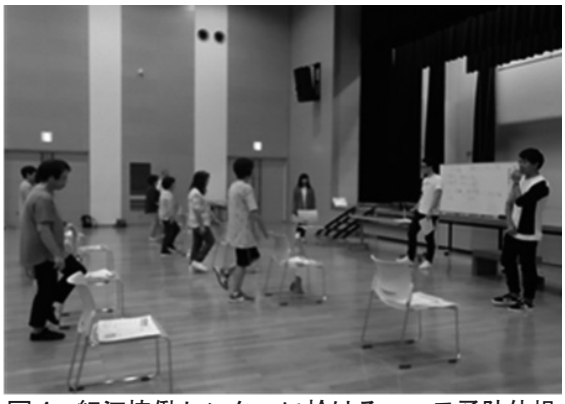

図 4. 細江協働センターに於けるロコモ予防体操

細江協働センターにおいては，「高齢者の運動機能チェック講座－足・腰鍛えて健康寿命を延ばそう－」と題し，理学療法学科 4 年生 3 名が学生講師を務めた．講座の最初に，ロコモに関する講義を行い（図 3），受講者が理解を深めた後，ロコモ発生のリスクについて説明し，「ロコチェック」を行った．講座の最後には学生講師が指導し，受講者全員でロコモ予防体操を実施した（図 4）．講師を務めた学生と参加者には個人を特定せずに公表することも説明し，了承を得た．

講座終了後の学生講師の感想

この度，学生講師を経験した 3 年生は，自分たちの知識や測定時の参加者への説明方法，測定時のリスク，プレゼンテーション時の声の大きさや口調についての反省など，技術の未熟さを中心に感想を述べていた．4 年生は，将来理学療法士として働く際の予備活動になったとして，就職後における職業人としての理学療法士像を念頭に置き，今回の経験を肯定的に捉えた感想を述べていた．特に 3 年生は，他人に分かりやすく説明することの難しさを経験したと述べ，学内において講義を担当している教員たちへの感謝の気持ちも述べていた．

受講者らの感想

受講者からは「私にも家族にとっても大変良い経験となりました．今からでも，予防のために運動を実践することで，ロコモになるのを遅らせることができることが分かりました．生活の中で，教えて頂いたトレーニングを行っていきたいと思います」，「学生さんの説明は声も大きく，はっきりとした説明で良かったです．立派な理学療法士さんになることができると思います」といった感想があった．

浜松市の職員からは，「ロコモティブシンドロームの予防に関する本格的な講座は大学連携では初めてで，受講者にとって貴重な学びになったことと思います」，「学生さんの熱心な説明に心をうたれました．きっと，素晴らしい理学療法士さんになり，困っている方に寄り添った対応をしてくださる専門家になられると思いました．センター職員はもとより，地元のシニアクラブの方たちも，ロコモ予防の大切さを感じる機会になったので，感謝しています」という心温まる感想を頂き，講師を務めた学生たちにはより一層の励みになったと考えられた．

地域連携事業報告会

2020 年 2 月 27 日（木曜日）13 時 30 分～16 時 30 分，浜松市地域情報センター 1 階ホールにて，「浜松市と大学との連携事業－大学生による講座－成果報告会」が開催された．浜松市創造都市・文化振興課職員が司会を担当され，浜松市創造都市・文化振興課生涯学習担当課長による主催者挨拶，浜松市創造都

市・文化振興課指導主事による今年度事業の概要説明に次いで，今回の地域連携事業にて講師を務めた大学生が，参加大学ごとに報告した．

本講座の講師を務めた3年生男子4名もMicrosoft Powerpoint 2010のスライドを用い，10分間の報告を行った．

まとめ

2019年度，「浜松市と大学との連携事業―大学生による講座」に初めて参加する機会を得た．市民が参加できるこのような講座は，ポピュレーションアプローチとしての機能を果たすといえる．しかしながら講座に参加するのは，一般的に健康への関心がより高い人々であると思われる．リスクを減らすために，高いリスクを持った人の参加を促すハイリスクアプローチも考慮を要すると思われる．そのためには，講座に参加したいと思わせるような取り組み－宣伝方法－も再検討する余地があると考える．

謝　辞

本講座にご参加いただいた市民の皆様，講師を務めた学生に感謝いたします．

文　献

1) 浜松市：浜松市生涯学習推進大綱 http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shogaigk/lifelong/shogaigk/index.html.（2013. 9. 1）2020. 6. 2 閲覧
2) 広報はままつ 2018年3月号：地域に新たな風を―大学生による講座 https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/koho2/pr/kouhou_all/1803/tokusyu.tokusyu.html.（2018. 3. 5）2020. 6. 2 閲覧
3) 倉本哲男：サービス・ラーニング（Service-Learning）の授業構成因子に関する研究―「リフレクション」（Reflection）の関係性に着目して ―．教育方法学研究 30：59-70, 2004.
4) 木村充，河井亨：サービス・ラーニングにおける学生の経験と学習成果に関する研究．日本教育工学会論文誌 36：227-238, 2012.
5) 松谷美和子，田代順子，他：看護教育法としての「サービス・ラーニング」実践研究文献レビュー．聖路加看護大学紀要 30：31-38, 2004.

別刷請求先
〒431-2102
静岡県浜松市都田町1230番地
常葉大学 保健医療学部 青山満喜